

広島別院だより

Vol.35
冬号真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会 発行

報恩講勤まる

昨年十一月一日・二日、報恩講が勤まりました。講師は栗栖寂人師（たつの市正行寺）です。以下、法話の抄録です。

●伝統と因習

報恩講は親鸞聖人の三十三回忌に始まつて以来、七百年以上勤められてきた真宗の伝統である。

「伝統」と似て非なるものに「因習」というものがある。因習は昔からやつてきたというだけで、それをなぜするのかという問いは許されない。対して伝統は一人一人が自分自身にとって、なぜそれをするのかという問い返しがある。報恩講は私たちの在り方を問い合わせ、仏から何を願われているのかを明らかにしていく伝統なのである。

正信偈に「大悲無倦常照我」とある。常に仏に背き続けて生きている私たちを如来は決して見捨てず、照らし続けているという意味である。仏の慈悲に照らされている私たちが、仏に何を願われているのかを問い合わせ、訪ねていくのが報恩講の意義なのである。

●仏に背を向けて生きるすがた

部屋を掃除していたら、こんな文章を見つけた。
「親ほど鬱陶しい者はない。
子どもほど厄介な者はない。
夫ほど平凡で薄情な者はない。」



栗栖寂人 師

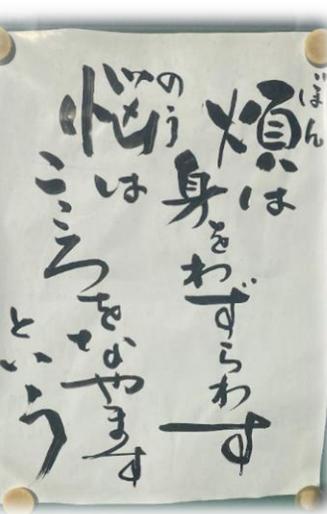
●南無阿弥陀仏～仏の呼び声～

南無阿弥陀仏と念仏を申すということは仏の呼び声を聞くということである。それは「いかに背を向けようとも、決して捨てぬぞ、必ず救うぞ」という仏の呼び声である。念仏申し、その呼び声を聞き続けていく生活の中に我が身を見出してきたのが真宗門徒の歴史である。自ら念仏申し、次の世代に念仏を伝えていくことが私たち真宗門徒の役割であり、生き方ではないか。称える念仏必ず誰かが聞いている。そのことを念じて、これからも共に念仏申していくたいと思つ。



お磨きを行いました

昨年、十一月十七日、別院報恩講にむけてお磨きを行いました。安芸南組の寺院、ご門徒を中心にして十六名の方に参加をいただきました。磨き上げられた仏具はピカピカになり、十二月の報恩講を気持ちよく迎えることができました。参加のみなさま、有難うございました。



明信院掲示板

親鸞は九歳の時、叔父の日野範綱に連れられて出家得度したとされています。わずか九歳で出家した理由は諸説あります。弟全員も出家しているところをみると、先に父が出家(失踪?)したことなどにより、経済状況が悪化したことが大きな理由かと思われます。

伝説では、得度の時、夜遅く暗かつたため、比叡山の座主慈円から得度は次の日にしようと言されました。その際、親鸞は次のような和歌を詠みました。「明日ありと思つ心の仇桜夜半に風の吹かぬものかは」明日をも知れないわが身であると述べ、慈円は得度をしたとのことです。

浄土教に念佛を唱え続ける常行三昧という修業があります。一日六回昼夜六時に分けて阿弥陀仏を讀歎し、浄土往生を願いながら礼拝します。その始まりは日没(午後四時)です。夜明けから日没ではなく逆になっています。夜は死の隠喻であります。これは今までの自分が死に、新しく念佛を中心とする自分が生まれることを表現しているのです。この親鸞の伝説は仏道修行へのひたむきさだけでなく、俗世の親鸞が九歳にして死に、求道者として生まれ直したことを見表現しているのではないで

3月22日(火)春彼岸会

【講 師】 松江 長親 先生（福山市明圓寺住職）

【日 程】 14:00～勤行と法話 16:30 終了予定

＜彼岸とはさとりの世界。昼と夜の時間が等しくなる

4月22日(金) 真宗の仏事入門講座

【講 師】 近松 耘 先生（東本願寺本廟部部長）

【日 程】 每回 13:30~16:00 【会 費】 500 円

〈浄土真宗の仏事について学ぶ講座です。ぜひご参加ください。〉

毎月5日 定例講話（ご金目の集い）

【講 師】 境内僧侶(日替わり) 【日程】 14:00~勸行と法話(15:00 終了予定)

【前　　師】 東向信信(刀呂モリ)、【口　　性】 トトロ　　動向と法話
(広島別院開基　教如上人の御命日(毎月5日)に法話会があります)

講座・法要・定例法話にお参りの際は、マスク着用してコロナウイルス感染拡大防止にご協力ください。

【編集室より】 気が付けば、もう一月中旬。年末は大晦日がうと慌ただしくしていましたが、正月も終わりドンドン時間が過ぎていきます。

今年は長男が成人式。これもまた早いものだと。長男は大学でスキーカンパニーでトレーニングして元気に帰つて来る予定でしたが、三日の晩「怪我しました」とメールが。やつちまたたかと、複雑な思いをしながら、帰郷路の途中まで迎えに行き、市内の病院へ。翌日MR-Iを受け「肉離れ」と診断されました。靭帯損傷じゃなくて良かったと思いながら、松葉杖で成人式に臨まねばならないなあ」と思っていたら、コロナ感染拡大により成人式は延期に・。入学式の時にスーツを購入しましたが、入学式は中止。成人式で着れば良いかと思っていたら、どうやら筋トレのお蔭でお育てにあいスーツが入らない。新しいスーツを購入しましたが、これもまた着る機会なし。やれやれ、と思いながら、北の大地に帰るフェリーを予約して、いざ帰る日に、「天候不良でフェリーが欠航になつた」「授業開始に間に合わん」と。もおう踏んだり蹴つたりの年明けとなりましたが、当の本人は「まあ、何が起こるか分からんってことよ。受けとめよう」と。大人びた発言で少し嬉しくなりました。

道場樹

本人は「まんってことになりの年明けにびた大人した。(G・M)

